

苫小牧市役所エコオフィスの運用実績(平成 22 年度)

苫小牧市役所エコオフィスプラン（平成 23 年 4 月策定）に基づき、市役所全施設の事務・事業活動に伴う温室効果ガス排出量及びエネルギー使用量を公表します。

温室効果ガス排出量は 53,785 t-CO₂ となり、基準年と比べると 6.7%減少しました。

エネルギー使用量は 18,029kℓ(原油換算)となり、基準年度と比べると 2.2%増加しました。

要因別温室効果ガス排出量

温室効果ガス 排出量*	21年度(基準年)	22年度		26年度	
	t-CO ₂	t-CO ₂	増減	t-CO ₂	増減
排出区分					
エネ起源 CO ₂ *	34,859	32,555	-6.6%	-	-
市長部局	16,495	14,774	-10.4%	-	-
教育委員会	14,574	13,832	-5.1%	-	-
自動車使用	3,791	3,949	4.2%	-	-
非エネ起源 CO ₂ *	22,771	21,230	-6.8%	-	-
合計	57,630	53,785	-6.7%	47,544	-17.5%

※ 四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

※ エネ起源 CO₂ は市長部局・教育委員会・自動車使用の合計です。

※ 非エネ起源 CO₂ は廃棄物燃焼による排出量です。

<エネ起源 CO₂>

エネ起源 CO₂ の排出量は、市長部局・教育委員会・自動車使用の CO₂ 排出量の合計です。基準年度と比べて 6.6%減少しました。主な要因は以下の通りです。

<市長部局・教育委員会>

市長部局及び教育委員会の CO₂ 排出量は、基準年度と比べてそれぞれ 10.4%、5.1%減少しました。主な要因として、エネルギー使用量は増加したが電気の CO₂ 排出原単位が 0.433kg-CO₂/kWh (21年度) から 0.353kg-CO₂/kWh (22年度) に大幅に下がったことが挙げられます。

<自動車使用>

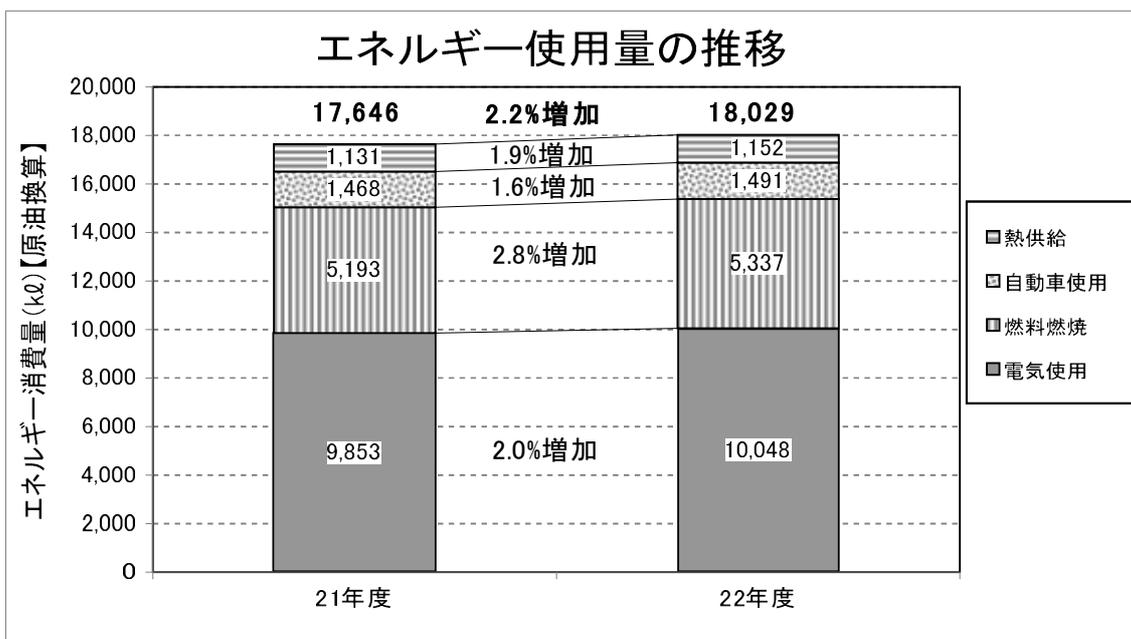
自動車使用の CO₂ 排出量は、基準年度と比べて 4.2%の増加しました。主な要因として、22年度から廃プラ収集開始に伴い、収集車両や稼働日数が増加したことが挙げられます。

<非エネ起源 CO₂>

非エネ起源 CO₂ の排出量は市が収集した焼却ごみに含まれる廃プラスチック類の燃焼から発生します。

基準年度と比べて 6.8%減少しました。主な要因として、22年度 4月から開始したプラスチックの資源回収により、廃プラスチック類の焼却量が減少したことが挙げられます。

※CO₂ 排出量は「地球温暖化対策」上の「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」に基づき計算しています。なお、電気の CO₂ 排出原単位は 1 キロワット時の電気を発電したときの CO₂ 排出量であり、北海道電力㈱の値を使用しています。



※ 四捨五入の関係で合計と一致しない場合があります。

<熱供給>

熱供給によるエネルギー使用量は、基準年度と比べて1.9%増加しました。

主な要因として、日新温水プールで22年度指定管理者の変更に伴い、開館時間を延長したことが挙げられます。

<自動車使用>

自動車使用によるエネルギー使用量は、基準年度と比べて1.6%増加しました。

主な要因として、平成22年度から廃プラ収集開始に伴い、収集車両や稼働日数が増加したことが挙げられます。

<燃料燃焼>

燃料燃焼によるエネルギー使用量は、基準年度と比べて2.8%増加しました。

主な要因として、沼ノ端スポーツセンターの供用開始や市民の要望により各コミセンの暖房の設定温度を上げたことが挙げられます。

<電気使用>

電気使用によるエネルギー使用量は、基準年度と比べて2.0%増加しました。

主な要因として、施設の増設や事業系ごみの減少に伴い発電量が減少したため、買電量が増加したことが挙げられます。